

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係（毒ガス問題） 第一次移送(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43779

米側
ブリーディング

取扱注意

起
東京
村属泰信渡
深
信

タイプ指示	発信用	執務用	計
主 信	2	1	
付 属	米 2 丁		
	(仲 絶 10 丁)		

発送日 昭和45年12月21日
 発信 検査

文書課長 (特) 公 信 集 (分類)

公 信 第 4577 号 公 信 日 付 昭和45年12月19日

大 臣 主管 アメリカ局長
 政務次官 参事官
 事務次官 北米第一課長
 外務審議官
 官 房 長 主任

起案 昭和45年12月19日
 起案者 古田 電話番号 2844

受信者 在米 牛場大使
 在沖繩 高橋大使 (主)

発信者 外務大臣

写送付先 (希望発送日) 月 日

件 名 仲絶の毒ガス撤去に因する米側
 ブリーフィング資料の送付
 (等内経)

GA-2 10 124 外務省 回覧番号

沖絶分
加
11
21
折
考
す
7
ニ
と
し
た
し

* 秘密標準 (赤色)

米北合第4577号
昭和45年12月19日

在外公館長殿

外務大臣

(件名) 仲絶の毒ガス撤去に因する米側
ブリーフィング資料の送付
(等内経)

引用公・電信 日付・番号 米・仲絶あて伝電米北1合第4582号

去る12月11日 本省におりて行中
左標記ブリーフィング資料の送付
と作成し左のて 下記部数参考まで
別添送付する。

記
※ 付属添付 付属空便 (行) 付属空便 (DP) 付属船便 (貨) 付属船便 (郵)
GA-2-1 外務省

12月11日付往電
メール (2) 在米大使館
往電信

(※印は文書課記入)

在米大使館 2部

在仲經代表館 10部

本信^{送付}先 米、仲經準備書

秘
無期限

大臣 秘書官、
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

条約局長
情報文化局長
軍縮室長

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

仲經の妻がス撤去に因る米側
ブリーフィング資料等の配布について

45. 12. 18
米北1

先にお届けした 12月11日 外務省^(12.11.1) 行中
米北標記ブリーフィング関係資料^(12.11.1) 別添1
中

ブリーフィング概要(含質疑応答)はついでに
既に米側におりても公表は異なる、
不内容

報道関係者に対しは発表材料のついでに
別添2の合談記録はついでに内容

的は概微と思わしき点を除く
と、本資料は仲經妻がス撤去問題に

また、毒ガス撤去問題をめぐる最近の

(57)

論議に鑑み、本資料の取扱いは、
是れを御留意願します。

また、本資料は、関係者一般の啓蒙に
資するとするべきと認められた。省内

関係者のほか、別紙リストのとりの省外
関係者に27にも配布を予定して置く

し、以下の2" 御参考とす。おしせします。

省外出発者配布リスト

1. 総理官邸 小杉秘書官
後藤秘書官

2. 国会関係 小坂外交調査会長
床次議員

西銘 "

国場 "

橋本 "

遠田 自民党調査員

3. 各省庁 ^{沖繩.北} 総務庁 血水秘書官

岡田 印長

^{守石} 後援部長

厚生省 萩島官房科学技術参事官

警察庁 佃 外事課長

信託庁 鈴木参事官

阿達 2 佐

以上 15 件

安全保障課長

取扱注意

		1	2	3	
長	総務課	昭45年12月18日	18日	18日	☑
首席	地位協定班		7	1	
	防衛班				
	調査連絡班				
	事務班				

沖縄の毒ガス撤去
(米側説明等)

アメリカ局北米第一課

沖縄の毒ガス撤去
(米側説明等)

- 1 12月11日10:00より外務省において、在沖縄第2兵站部司令官ヘイズ少将、高等弁務官府情報調整官グレッグ大佐が中心となつて、外務省のほか沖縄北方対策庁、防衛庁、警察庁、厚生省各関係者に対し行なつたブリーフィング(含質疑応答)の概容は別添1のとおりである。
- 2 また同日午後ヘイズ少将、グレッグ大佐がスナイダー公使に伴なわれて大河原アメリカ局長心得を来訪、毒ガス問題につき会談せるところ、その要旨は別添2のとおりである。

別添1 2頁
別添2 22頁

別添 /

沖縄毒ガス撤去に関する米側
ブリーフィング

12月11日(金)10:00より1時間余に
亘り、外務省233号室において行なわれたブ
リーフィングの要旨次のとおり。

ブリーファー グレック大佐(琉球列島高等弁務
官府情報調整官)。なお質疑に対しては、主と
してヘイズ少将(在沖縄第2兵站部司令官)
が応答。

出席者

外務省 大河原アメリカ局長心得
千葉北米第一課長
板橋軍縮室長
他、北米第一課、安保課、軍縮室の担
当官
厚生省 萩島官房科学技術参事官他
防衛庁 鈴木渉外参事官
陸幕化学課阿達二佐(機材班長)
陸幕化学課甘利三佐(技術研究係員)

沖縄北方対策庁 岡田総務部長

警察庁 佃 外事課長

米 側 スナイダー在京米大使館公使

シュミツ、ドーキンス、キリオン、ドノヴァン

各在京米大使館書記官

ナカヨシ高等弁務官府通訳官

1. 一般説明

スナイダー公使の紹介に引き続き、ヘイズ
少将より、(1)12月4日の国防長官発表によ
り、まず150トンのカラシガスの移送が決
定されたが、(2)毒ガス撤去に当つての米側の
第1の考慮は基礎訓練を徹底し安全措置に万
全を期することであり、経費及び時間はその
次の問題である、(3)移送計画の策定には国防
総省のみならず、スタインフェルト公衆衛生
局長、その他民間の専門家から成る委員会を
設置し、右を適じて種々のサジェスチョン
を与えている、(4)本日は同様のブリーフィ
ングが、並行して琉球政府に対して行なわれ、引

き続き報道関係者に対するブリーフィング及び移送路面のバス・ツアーが行なわれる旨の冒頭発言があり、以下グレッグ大佐によるスライドを使用した説明に入つた。

A、総論

- (1) 沖縄毒ガス移送は「赤帽子」(Red Hat) 作戦の名で呼ばれる(スライド1)。以下の説明と同様の説明が、琉球政府関係者、沿道の市町村長及び町村議会関係者に対し、並行して行なわれる予定である。
- (2) 沖縄毒ガスの移送先として決定されたジョンストン島はハワイの南西750マイルの地点にある面積700エーカーの島で、原住民はいない。
- (3) 赤帽子作戦はまずカラシ・ガス兵器150トン分の移送をもつて開始される。移送の日付は後日発表される。150トンに限定されるのは現在ジョンストン島における施設の収容能力に限界があるからであり、残

余の毒ガス兵器は同島施設拡張の完成をまつて移送される。

第一次撤去の経路から変更が加えられない限り、残余の毒ガスの搬出も同様の方法によつて行なわれることとなる。

- (4) 在沖縄米陸軍(U.S.A.R.Y-I-S)が知花弾薬庫よりの搬出から天願棧橋までの運搬及び船積みの責任を負う(スライド2)。安全性の許容する限り、沖縄搬出の全行程は公開される。
 - (5) レアード国防長官は本移送計画を承認するに当り、「最大限の安全」が本計画を貫ぬく基本である旨強調した。その結果、安全性を高め、一般住民への危険を最少限にとどめるための全ゆるる措置がとりいれられている。安全第一が絶対の条件である。
- #### B、安全措置
- (6) 毒ガス兵器は最近徹底的な検査を受け、いつでも移送しうる体制にあり、かかる検査

は今後も継続される。さらに毒ガス兵器の搬出、移動、貯蔵の全ゆる面に亘り、綿密な手続きが定められており米国メリーランド州エッジウッド兵器廠からの派遣員による護送班（ Technical Escort Teams: 毒ガスの移送及び無毒化の専門家からなる）が移送の全行程を通じて同行する（スライド3）。万一の事故に備えて、知花弾薬庫、天願棧橋、輸送隊には十分な量の中和剤が備えられている。

毒ガスの搬出は厳格な訓練を受けた米軍要員により行なわれる。移送に直接携わる全要員による予行演習も実施済みである。

C、指揮系統

(7) 移送の指揮は、USARYIS の作戦・司令センター（ Command Control Operation Center CCOC ）及び第2兵站部の在知花弾薬庫の司令センターから発せられ調整される（スライド4）。(1)知花司令センターは輸

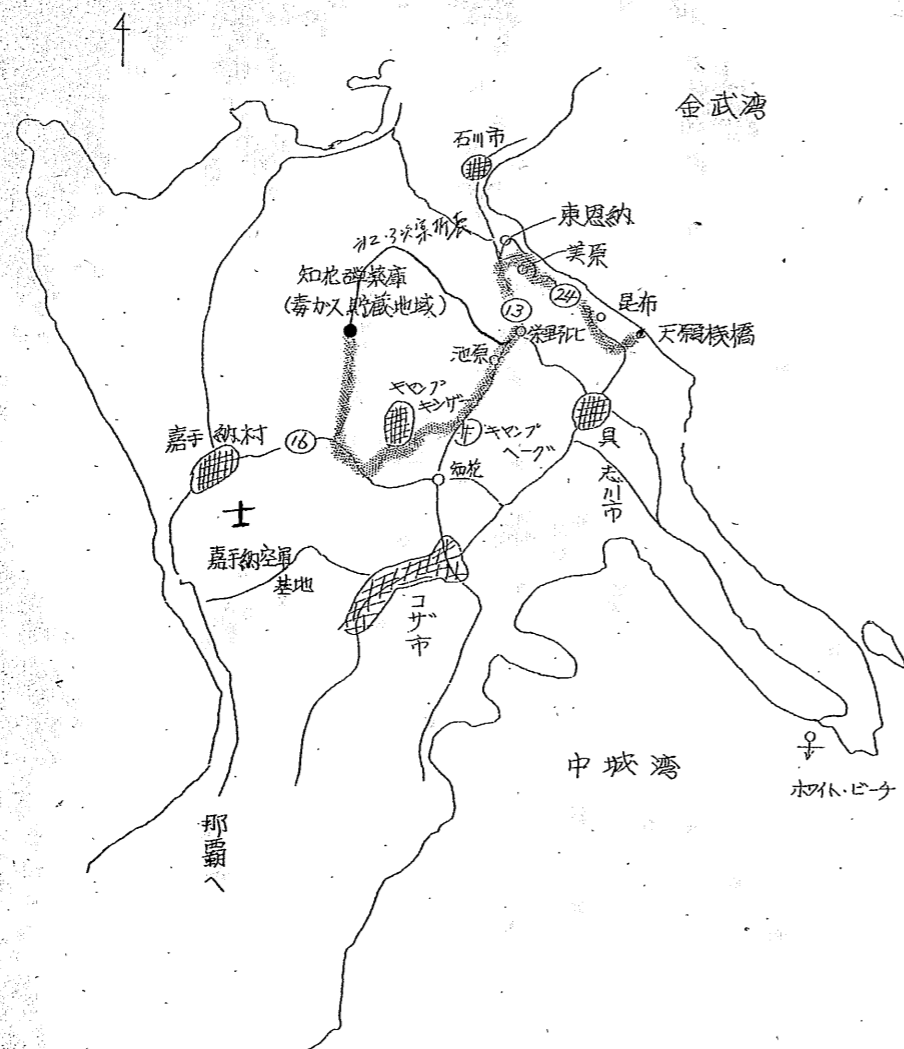
送隊、天願棧橋、及び上空のヘリコプターと直接連絡できる。また(2)CCOCは上記知花司令センターのほか、米憲兵隊（MP）関係者全員と直接連絡できる。

D、輸送体型

(8) 輸送隊の編成（スライド5）は、(1)MP交通整理車（上空にヘリコプターを配置）、(2)その後方4分の1マイル（400メートル）にMP先導車、(3)毒ガス積載のトレーラー5台、(4)護送班車、(5)中和剤積載車、(6)予備トレーラー、(7)レッカー車、(8)救急車、(9)MP警護車となる。その後記者団を乗せたバスが続く。輸送隊の運転車は成績優秀な者の中から厳選される。

E、輸送経路

略図 1.

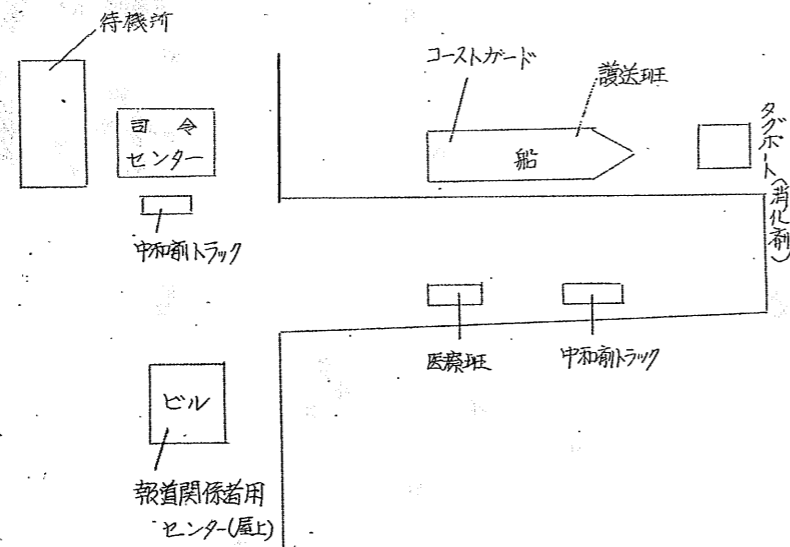


(9) 輸送経路(スライド6)は、(1)知花弾薬庫内「赤帽子」区域発、(2)軍用道路經由嘉手納空軍基地の北側を通るハイウエーへ、(3)左折して海兵隊のキャンプ・キンザー(Camp Kinser)バイ・パス經由、さらに左折してハイウエー13号線へ、(4)海兵隊キャンプ・ヘーグ(Camp Hauge)から北上、ハイウエー24号線を経て天願棧橋に至る。

全行程は7マイル(11.2キロ)で、最も近距離かつ人家のない、米軍施設に近接した舗装道路線として選択されたものである。舗装は常時検査され、必要あらば補修される。

(10) 輸送隊は天願棧橋到着後、待機所(holding area)に入り、5台の毒ガス積載トレーラーを残し、知花弾薬庫に引き返し、さらに5台の毒ガス積載トレーラーを同じ方式により棧橋まで護送する。

略図 2.



F、船積

(1) その間、船積に先立ち、米国沿岸警備隊（コスト・ガード）の定める綿密な検査

が行なわれる。(1)船上には護送班及びコスト・ガード船積班が待機、(2)付近に消化剤積載のタグ・ボートを配し、(3)棧橋には中和剤積載の消毒班トラック、医療班が待機、さらに棧橋付近の司令センター前にも予備の中和剤積載車を配する。報道関係者用センターも待機所付近のビルの屋上に設けられる（スライド7）。

(2) 船積準備完了次第、トレーラーは棧橋上へ。船積に当つては船倉被張り（sheathing）に2日、積込に2日、計出港までに4日を要する（スライド8）。

ジョンストン島への輸送には10日を要する見込みである。

G、琉政との協力

(13) 移送を円滑に行なうため、琉球政府、町

村関係者及び琉球警察は、沿道住民に対し毒ガス移送計画につき通報し、輸送隊通過時に子供が路上に出ないように、一般乗用車、タクシー等は通過をまつてハイウエー乗入れを行なうよう指導することが要請される。

琉球警察は、交通規制の各ポイントに人員を配置して、交通及び歩行者の指揮に協力することが要請される。

H、その他

(14) 前述のとおり、最大の考慮は安全であり、車両は知花弾薬庫出発前には必ず綿密な検査を受ける。梱包、表示、積込、積卸、台座の固定、監視等についても基準が定められている。

輸送は日中のみ、天候良好の際のみ (under acceptable weather) 行なわれる。

2. 質疑応答 (主としてヘイズ少将が応答)

問 沖縄毒ガスの貯蔵量いかに。
{沖縄北方対策庁}
{岡田総務部長}

答 総貯蔵量は13,000トンである。

問 HD、GB、VXの種類別貯蔵量如何。
{外務省国連局}
{軍縮室長}

答 その点については答えられない。

問 中和剤は信頼できるものであるのか。
{厚生省}
{萩島参事官}

答 しっかり。米陸軍が標準的に使用している科学薬剤であり、最も効果があるとされている。

問 カラン・ガス150トンだけの移送が
{外務省国連局}
{軍縮室長} 決定された理由如何。

答 現在のジョンストン島における施設の収容能力がちょうどそれに見合うものだったからである。

問 しかれば、残余のガスのジョンストン
{対策庁 } 島への移送時期は如何。
{岡田総務部長}

答 ジョンストン島の施設拡張工事は1971
年中には完成するものと考えている。

問 12月4日の国防長官の発表では1971年末か、
{対策庁 } 1972年はじめということであ
{岡田総務部長} つたと記憶しているが、1971
年中の完成ということに間違い
はないのか。

答 1971年中完成のための資金は確保さ
れており、準備は万端整っている (all in
order) と承知している。

問 残余のガスは工事の進捗状況に応じ段
{防衛庁 } 階的に移送されるのであるか。ま
{鈴木参事官} たは拡張工事完成後一括して移送
されるのか。

答 逐次段階を踏んで移送するとの案は検討

したことがない。ジョンストン島の施設建
設に携わる者の安全性も考慮しなくてはな
らず、拡張工事完成後一括して移送するこ
とと決定したのである。

問 残余の12850トンの毒ガスの沖縄
{警察庁 } 搬出に要する時間はどれぐらいか。
{佃外事課長}

答 船繰りの都合等状況により変りうるが、
約1カ月であろう。

問 米側は安全第一というが、それは裏か
{対策庁 } らいえば、それだけ毒ガスが危
{岡田総務部長} 険なものであるということにな
らないか。住民の安全に対する
具体的な配慮いかん。

答 貯蔵と移送の2つの側面がある。

(1)貯蔵については、毒ガスは「エスキ
モーの家」(igloo.)と呼ばれる貯蔵施設の
中に納められており、ガス漏れの危険はま

ず全くないといつてよい。作業員も貯蔵所の中でこそ防毒マスク等をつけるが、その外では何も防護具をつけずに歩き回っている。(問)移送の場合、護送班員、MP等輸送隊要員には防毒マスク、防護服を配る。これは、ありうべからざる事故が万一発生した場合に中和剤を用いて実際に処理に当るのがこれら輸送隊要員だからであり、一般住民に防毒マスクや防護服を支給する必要はないと考えている。

(スナイダーより)毒ガスの移送が危険だから安全措置の万全を期するという考え方はあやまつた発想(false assumption)である。沖縄毒ガスの移送については、米本国における基準より厳格かつ広範な基準が適用されている。これは、毒ガスの移送が危険だからそうするのではなく、沖縄住民一般の心理的な不安に対する配慮に出たものである。米国内においても毒ガスの移送は行なわれているが、これまで一度たりとも事故が発生したことはない。

問 沖縄住民の感情にもかんがみ、防毒マ
{ 対策庁 }
{ 岡田総務部長 } スク、防護服の支給等配慮すべきではないか。これは質問というよりもむしろ私の方のお願いでもある。

答 そうまでする必要ありとは考えない。輸送隊要員に防護具を支給するのは、万々一事故が発生した場合実際に処理に当る必要があるからであり、一般住民は避難するだけで十分である。一般住民に防護具を支給すると却つて道路に近づいて来たりすることもありうる。これまで米国内における毒ガスの移送に際し、一般住民に防護具を支給したことは全くない。

(スナイダーより)日本本土においては、化学工業に使用されるもつと毒性の強い薬品がこのように厳格な基準の適用なくして行なわれていると承知している。

沖縄住民の不安は本土における本件の取

り上げ方如何にかかっている面もあるので、必要以上の心配は与えたくない。

問 毒ガスが漏れた場合はすぐ拡散するの
{警察庁}
{佃外事課長} か。

答 そのようなことはない。毒ガス兵器は兵器として使用された場合でないと本来の機能は発揮しない。移送途中万一容器が壊れて毒ガスが漏れることはあつても、液体となつてこぼれるだけであり、ガスの種類により長短はあるが、拡散までには時間がかかるので、護送班が直ちに中和剤を用いて無毒化することができる。住民は道路を離れてさえいれば全く安全である。

問 知花弾薬庫から天願棧橋までの陸上輸
{警察庁}
{佃外事課長} 送の所要時間如何。

答 輸送隊1回につき30分である。

問 輸送隊が1回に輸送しうる量はどれ位
{警察庁}
{佃外事課長} か。

答 毒ガス兵器の種類によつて大きさが違うので一概には言えないが、150トンのカ
ラシ・ガスは、輸送隊が2回に分けて輸送する。1回に輸送出来ないことはないが、そうすると車列が長くなるので、専門家の委員会(1冒頭の参照)の示唆もあり、2回に分けることとしたものである。

問 輸送の際交通は全面的に遮断するのか。
{警察庁}
{佃外事課長}

答 MPと琉球警察が協力して規制を行ない、たとえば追越し、割込等はさせないようにする。しかし全面規制は行なわない。反対方向に向う車輛は規制しない。

問 沖縄の毒ガスの無毒化は可能であるか。
{ 外務省国連局 } 沖縄において無毒化するとの計
{ 軍縮室長 } 画があつたように記憶するが、
それが立消えになつた理由如何。

答 沖縄毒ガスの安全な無毒化は可能である。
それを行なうか否かは政治的決定の問題で
あるが、かかる無毒化を実施するには新た
な施設の建設を要し、毒ガスを移送するよ
り長く時間がかかり、かつ沖縄の民心にと
つて受け入れ難いことになると思う。

問 住民の避難・待避等は考えないのか。
{ 警察庁 }
{ 佃外事課長 }

答 かかる避難・待避が必要になる可能性は
ゼロに等しく、かかる事態は予測せず、そ
の計画もない。但し、万々一そのような事
態が生ずれば、輸送隊の司令官が琉球警察
とも協力してしかるべく措置することにな
るう。

問 以上受けた移送の方式は毒ガスの種類
{ 外務省 } 如何を問わず妥当するものである
{ 北米ノ課 } か。

答 そのとおりである。

別添 2

大河原局長心得・ヘイズ少将会談

○12月11日午後於アメリカ局長室(約40分)

○日本側 大河原局長心得、千葉北米第1課長

米側 スナイダー公使、ヘイズ少将、グレッグ大佐、シュミッツ、キリオン両書記官

1. 毒ガス移送完了の促進

(1) 当方より日本政府専門家による現地搬出立会の必要性につき発言、若干やりとりのち、当方より今朝のブリーフィングにつき報告を受けた愛知外務大臣の意向として、移送完了が1972年までかかる可能性がある点は長過ぎるとの感が強く、国民感情(本土・沖縄とも)を考慮すれば出来る限り貯蔵施設拡張工事の促進、移送完了の早期達成(71年末よりも早く)に関し米側として出来る限りの努力を願って欲しい旨要望、先方は本国にその旨報告かつ進言すると述べた。

(2) また当方より追加施設完成次第逐次移送

することの可能性につき質問せるところ、先方は当局として全然かかる案を検討したことがなく、実際問題としてジョンストン島の狭少さよりして建設作業員を搬入の度に島外に移すを要すべく、かえつて工期を遅らすことになると思われるが、おたずねの点もあわせて本国に報告すると述べた。

2. 運搬船について(以下先方の述べたところのみ)

全量移送に専門船数隻を用いる。各船の積込み量は能力一杯ではなく、航海中点検可能のようゆとりを以て積む。第1回の150トンは能力を遙かに下廻る。米海軍規則によれば万一の事態発生し自沈の要ある場合、必らず1,000尋以上の深さ(米政府公衆衛生規定による)で実施することとなっている。

3. 陸送について

移送が本格化すれば日に4~5 CONVOY分を運ぶこととなる(夜間は遅ばず、また船

積みしない)。船積み中の3～4日間は常に CONVOYが動いていることとなる。

4. 船積みの発表期日

- (1) 本国より実施命令が発出されると(1)軍海上輸送部(MSTS)が配船(発出後最大12日間で船が沖縄に到着する)し、また(2)積み込み日(D-day)が決定される。
- (2) 発表の期日は状況にもよるがD-day前最短3日最長12日位の間と思われる。なおプレスに対しては必ず2日前に知らせることとなっている。
- (3) 移送途上のサボタージュ防止のための機密保持上発表が遅れることも考えられなくはないが、船が到着すれば必ず人目に触れるのでこの点あまり神経質に考えていない。

5. 一般住民に対する文書啓発

- (1) (当方よりかかる啓発の必要性を説いたところ)極めて良い示唆であり、実現可能と思う。民政府が琉球政府及び関係町村当局と協議して作業することも考えられる。
- (2) (当方より重ねて心理的要因の重要なこと、工業用危険物の輸送とは受取り方が全然異なること、及び啓発はなるべく具体的に——例えば容器が破れても液体が地上にこぼれるのみなる点など——説明すべきことを述べたに対し)毒ガスは極めて拡散させ難く、兵器としての能率は非常に低く、その実用は補給上の大問題を伴い技術的に極めてむづかしい。理論上極く微量でも致死量となるが実用に当つては全く話しが違ふ。なお液体がこぼれたままになるとの説明ぶりには何ら問題がない。

6. 損害賠償

万一事故による損害発生の場合は外国人損

害賠償法 (FOREIGN CLAIMS ACT) により救済する。

7. 注射について

(1) 神経ガスに犯された際直ちに「アトロピン・サルフェート」を注射すれば助かる。右は CONVOY中の救急車に備付けてある。

(2) なお沖縄原水協は「米軍人及び家族には予防注射が行なわれる」との説を流しているが、全くの誤報で、かくの如き予防注射は存在しない。このデマの出所は米軍が綿密に調べたが遂に分らなかつた。(「米人にものみ防毒面を配る」という原水協の宣伝も同様デマだが、同じく出所不明。)

8. 環境問題諮問委員会 (CEQ) の役割

主たる関心は環境汚染であり本件移送とは直接関係ないと思われたが、念には念を入れるため国防総省がコメントを求めたもので、全く問題ないと思つている。結着つき次第日本側に連絡する。(主として道路汚染等が眼

目) 米側にとって最大の問題は、米厚生省による検討であつたがこれは無事終了した。

米側説明テキスト

RED HAT BRIEFING

GOOD MORNING, GENTLEMEN.

I AM COLONEL GREGG, INFORMATION COORDINATOR TO THE HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS. WITH ME ARE MAJOR GENERAL HAYES, COMMANDING GENERAL OF THE ARMY'S 2D LOGISTICAL COMMAND ON OKINAWA AND MR. HERBERT NAKAYOSHI, MY INTERPRETER.

THIS MORNING I SHALL COVER BRIEFLY OUR PLAN FOR RELOCATING THE INITIAL SHIPMENT OF TOXIC CHEMICAL MUNITIONS FROM OKINAWA TO A NEW STORAGE SITE. (SLIDE 1 ON) THIS RELOCATION OPERATION GOES UNDER THE NICKNAME OF RED HAT.

A BRIEFING SIMILAR TO THIS ONE WILL BE GIVEN TO GRI OFFICIALS, INCLUDING THE POLICE, NEWS MEDIA, AND MAYORS AND COUNCILMEN ALONG THE ROUTE BETWEEN THE STORAGE SITE AND THE PIER. (SLIDE 1 OFF - BLANK ON)

2

JOHNSTON ISLAND HAS BEEN SELECTED AS THE NEW LOCATION TO RECEIVE THE CHEMICAL MUNITIONS CURRENTLY STORED ON OKINAWA. JOHNSTON IS A SMALL ISLAND OF SOME 700 ACRES, WITHOUT NATIVE POPULATION AND LOCATED APPROXIMATELY 750 MILES ^{SOUTH} WEST OF HAWAII.

OPERATION RED HAT WILL COMMENCE WITH AN INITIAL SHIPMENT OF 150 SHORT TONS OF MUSTARD FILLED MUNITIONS ON A DATE TO BE ANNOUNCED. THE INITIAL SHIPMENT IS RESTRICTED TO 150 TONS BECAUSE OF LIMITED STORAGE FACILITIES PRESENTLY ON JOHNSTON ISLAND. THE MOVEMENT OF THE REMAINING MUNITIONS WILL DEPEND ON THE CONSTRUCTION OF ADDITIONAL STORAGE FACILITIES ON JOHNSTON ISLAND.

UNLESS MODIFICATIONS ARE BROUGHT ABOUT BY EXPERIENCE GAINED IN THE INITIAL SHIPMENT, SUBSEQUENT SHIPMENTS WILL BE HANDLES IN A LIKE MANNER.

(SLIDE 2 ON) THE U. S. ARMY IN THE RYUKYUS -- USARYIS-- IS RESPONSIBLE FOR MOVING THE CHEMICAL MUNITIONS TO THE

PIER AND LOADING THE SHIP. (SLIDE 2 OFF - BLANK ON)

IN SO FAR AS SECURITY AND SAFETY CONSIDERATIONS PERMIT, ALL ASPECTS OF THE OKINAWA PORTION OF THE OPERATION WILL BE OPEN TO THE NEWSMEDIA.

BEFORE TURNING TO DETAILS OF THE OPERATION, I WOULD LIKE TO MENTION THE SPECIFIC GUIDANCE PROVIDED BY SECRETARY OF DEFENSE LAIRD IN APPROVING THE PLAN. HE STRESSED THAT MAXIMUM SAFETY TO ALL CONCERNED WOULD DOMINATE ALL OPERATIONS. AS A RESULT, EVERY FEASIBLE MEASURE TO ENHANCE SAFETY AND MINIMIZE RISK TO THE PUBLIC HAS BEEN INCORPORATED. THUS, PLANNING FOR THE MOVE HAS BEEN GUIDED BY ONE SINGLE OVERRIDING PRECEPT -- SAFETY.

THE MUNITIONS HAVE BEEN THOROUGHLY INSPECTED RECENTLY AND ARE READY FOR SHIPMENT. INSPECTIONS ARE, OF COURSE, CONDUCTED ON A CONTINUING BASIS.

(SLIDE 3 ON) THIS SLIDE DEPICTS SUMMARILY THE INSPECTION REQUIREMENTS THAT HAVE BEEN CARRIED OUT DURING THE STORAGE

OF THE MUNITIONS ON OKINAWA AND WHICH WILL BE CARRIED OUT DURING RELOCATION OPERATIONS. (PAUSE FOR TRANSLATION) (SLIDE 3 OFF - BLANK ON)

IN ADDITION, DETAILED METHODS AND PROCEDURES HAVE BEEN DEVELOPED FOR THEIR SAFE HANDLING, MOVEMENT AND STORAGE. TECHNICAL ESCORT TEAMS FROM EDGEWOOD ARSENAL, MARYLAND WILL ACCOMPANY THE MUNITIONS THROUGHOUT THE ENTIRE MOVEMENT. THESE TEAMS HAVE BEEN STAFFED WITH EXPERTS IN THE MOVEMENT AND NEUTRALIZATION OF CHEMICAL MATERIAL.

I WOULD LIKE TO ADD THAT THERE ARE SUFFICIENT NEUTRALIZING AGENTS ON OKINAWA IN THE UNLIKELY EVENT THAT AN ACCIDENT SHOULD OCCUR. THESE NEUTRALIZING AGENTS WILL BE LOCATED AT BOTH CHIBANA AND TENGAN PLUS ACCOMPANYING EACH CONVOY.

ONLY U. S. PERSONNEL ARE INVOLVED WITH THE HANDLING OF THE CHEMICAL MUNITIONS AND THEY HAVE UNDERGONE RIGID TRAINING FOR THIS OPERATION. REHEARSALS OF ALL PERSONNEL

DEALING DIRECTLY WITH THE MOVEMENT HAVE BEEN ACCOMPLISHED.

THE COMMAND AND CONTROL STRUCTURE FOR THE OPERATION IS EXPERIENCED AND EFFICIENT. THE OPERATION WILL BE DIRECTED AND COORDINATED FROM (SLIDE 4 ON) THE USARYIS COMMAND AND CONTROL OPERATIONS CENTER (CCOC) AND THE 2d LOGISTICAL COMMAND CONTROL CENTER AT CHIBANA AMMUNITION DEPOT.

DURING ALL PERIODS THAT THE MUNITIONS ARE IN TRANSIT, HIGHLY QUALIFIED PERSONNEL WILL BE PRESENT IN THE CENTERS.

(SLIDE 4 OFF - BLANK ON) CHIBANA CONTROL CENTER HAS THE CAPABILITY OF COMMUNICATING DIRECTLY WITH THE CONVOY,

THE PIER AND THE HELICOPTER INVOLVED IN ROUTE SURVEILLANCE.

IN ADDITION, THE CCOC HAS DIRECT COMMUNICATIONS WITH

ALL MILITARY POLICE PERSONNEL WHO ARE INVOLVED WITH THE MOVE AND DIRECT CONTACT WITH THE CONTROL CENTER AT

CHIBANA FROM WHERE ALL CONVOYS WILL DEPART.

I WOULD LIKE AT THIS TIME TO DISCUSS THE COMPOSITION OF THE CONVOYS WHICH WILL TRANSPORT THE MUNITIONS FROM

STORAGE AREA TO PIER.

(SLIDE 5 ON) EACH CONVOY WILL BE COMPOSED OF A MP SWEEP VEHICLE APPROXIMATELY ONE-QUARTER OF A MILE AHEAD OF THE CONVOY. IN ADDITION, A HELICOPTER WILL CHECK THE ROUTE BEFORE AND DURING MOVEMENT OPERATIONS. THE NEXT VEHICLE WILL BE THE LEAD MP VEHICLE, FOLLOWED BY FIVE TRACTOR TRAILER CARGO TRUCKS, THE TECHNICAL ESCORT TEAM VEHICLE, CHEMICAL NEUTRALIZATION VEHICLE, SPARE TRACTOR, WRECKER, AMBULANCE AND A TRAIL MP VEHICLE. THE DRIVERS IN THE CONVOY HAVE BEEN CAREFULLY CHOSEN FOR THEIR SAFE DRIVING RECORDS AND REPRESENT THE FINEST AVAILABLE ON ISLAND. (SLIDE 5 OFF - BLANK ON)

WE WILL NOW TURN OUR ATTENTION TO THE ROUTE THE CONVOYS WILL FOLLOW. (SLIDE 6 ON) A SKETCH OF THE ROUTE IS SHOWN HERE ON THE SCREEN. STARTING AT THE RED HAT AREA INSIDE THE CHIBANA STORAGE AREA, CONVOYS WILL PROCEED ALONG A MILITARY ROAD TO THE HIGHWAY RUNNING

(ALONG THE NORTH SIDE OF KADENA AIR BASE; TURN LEFT TO THE NAVY'S CAMP KINSER BY-PASS; LEFT AGAIN TO HIGHWAY 13. THE CONVOYS WILL TURN NORTH AT MARINE CAMP HAUGE TO HIGHWAY 24, AND THENCE TO TENGAN PIER. THIS ROUTE, APPROXIMATELY SEVEN MILES IN LENGTH, WAS SELECTED BECAUSE IT IS THE MOST DIRECT AND LEAST POPULATED ROUTE BETWEEN STORAGE SITE AND LOADING PIER AND IS CLOSEST TO MILITARY INSTALLATIONS. THE PAVED ROAD SURFACE IS UNDER CONSTANT INSPECTION AND REPAIRS MADE WHERE NECESSARY.

ONCE A CONVOY ARRIVES AT THE PIER, IT WILL ENTER A HOLDING AREA WHERE THE FIVE LOAD-BEARING VEHICLES WILL BE LEFT. THE REMAINDER OF THE CONVOY WILL RETURN TO CHIBANA FOR ANOTHER SET OF FIVE VEHICLES. MEANWHILE, THE LOADING OF THE SHIP WILL BE UNDER THE SUPERVISION OF A SPECIAL LOADING DETAIL PROVIDED BY THE UNITED STATES COAST GUARD. (SLIDE 6 OFF)

(SLIDE 7 ON) THIS SLIDE DEPICTS THE LAYOUT OF THE PIER AREA. (POINT OUT TEAMS AND SAFETY EQUIPMENT)

(SLIDE 7 OFF)

(SLIDE 8 ON) AS MENTIONED EARLIER, THE INITIAL SHIPMENT WILL CONSIST OF ONLY 150 TONS WHICH CAN BE TRANSPORTED FROM CHIBANA TO TENGAN IN TWO CONVOYS. THIS SLIDE SHOWS THE PLANNED LOADING TIME. (SLIDE 8 OFF)

TO ASSIST US IN CARRYING OUT THE OPERATION SMOOTHLY, GRI AND VILLAGE OFFICIALS AND GRI POLICE ARE REQUESTED TO INFORM THE PEOPLE WHO LIVE ALONG THE ROUTE THAT THE REMOVAL OPERATION IS UNDERWAY, THAT CONVOYS WILL MOVE ALONG A DESIGNATED ROUTE, THAT PARENTS SHOULD KEEP THEIR CHILDREN OUT OF THE ROAD AND THAT DRIVERS OF CARS AND TAXIS SHOULD ALLOW THE CONVOY TO CLEAR BEFORE ATTEMPTING TO ENTER THE ROAD.

THE GRI POLICE HAVE BEEN ASKED TO ASSIST IN MANNING TRAFFIC CONTROL POINTS (TCP), DIRECTING TRAFFIC AND

CONTROLLING PEDESTRIANS.

IN CLOSING, I WOULD LIKE TO REEMPHASIZE THAT OUR CONCERN FOR INDIVIDUAL AND PUBLIC SAFETY IS PARAMOUNT THROUGHOUT ALL PHASES OF THE RELOCATION OPERATIONS. VEHICLES WILL BE THOROUGHLY INSPECTED PRIOR TO USE. THIS MEANS EACH TIME BEFORE LEAVING CHIBANA. REGULATIONS ALSO PRESCRIBE STANDARDS FOR PACKING, MARKING, LOADING, BLOCKING AND BRACING AS WELL AS GUARDING.

MOST SIGNIFICANT IS THE EXCLUSIVE USE OF SKILLED PERSONNEL THROUGHOUT THE ENTIRE OPERATION UNDER EXPERT TECHNICAL SUPERVISION. MILITARY AND GRI POLICE AUTHORITIES WILL ENSURE THE UNIMPEDED MOVEMENT OF THE CONVOYS BETWEEN CHIBANA AND TENGAN. CONVOYS WILL MOVE DURING DAYLIGHT ^{ACCEPTABLE} ~~GOOD~~ WEATHER CONDITIONS.

THIS CONCLUDES THE FORMAL PART OF MY BRIEFING. DO YOU HAVE ANY QUESTIONS?

ADVANCE COPY

本館-74-711950 120130
12月24日
TKJ

TOKYO SHIMBUN * (Full)

Dec. 12, 1970

US Officials Explain US Plan for Removing Poison Gas in Okinawa

Commanding Officer HAYES of the 2nd Logistical Command of the US Forces in Okinawa and others, who explained the plan for removing the poison gas in Okinawa at the Japan-US experts' consultations on the 11th, stated that, "We will guard it with MP patrol cars before and after the trucks loaded with poison gas. Furthermore, we will mobilize a technical team, a truck loaded with detoxicating agents, another trailer, and a wrecker." After this, they emphasized that, "Such careful safety measures are unusual and unprecedented, in comparison with the US Forces' standards." Hard on the heels of this statement, Minister to Japan SNEIDER stated, "This is a special measure taken in consideration of the Okinawan people's sentiment. In the Japanese mainland, industrial chemicals are being transported in a more dangerous form than poison gas in certain conditions." He showed a look as if he wanted to say -- the Japanese are insensible at ordinary times, and yet they become severe when it comes to a matter of the US Forces.

* Seikai Techo

SO

SANKAI * (Full)

Dec. 12, 1970

Minister SNEIDER Criticized by Certain Foreign Ministry Staff Official

US Forces' staff officers, who explained, on the 11th, to the Foreign Ministry the plan for removing the poison gas in Okinawa, to start from next January, showed a manner of extreme care, saying, "In transferring the poison gas, we will make it our motto to stick to safety first. We will summon an expert commander from our home country and after performing a preliminary drill, we will carry out the transfer. So, we want you to set your minds at ease."

However, Minister to Japan SNEIDER, who sat in on the meeting, stated, "It is unprecedented that we will take such safety measures. Even in the Japanese mainland, dangerous industrial chemicals are transported. Although they are not taking safety measures very much, is it not that no accidents have occurred?" A certain Foreign Ministry staff official,

who heard this, made a grim face, saying, "Mr. SNEIDER always adds a few extra words."

* Lobby

SO

ASAHI * (Full)

Dec. 12, 1970

Minister SNEIDER Speaks Sarcasically of Japanese People's Over-Sensitiveness against Poison Gas

In order to explain the removal plan called "Operation Red Hat" to show how safe the work to remove poison gas in Okinawa is, US Minister to Japan SNEIDER and others called at the Foreign Ministry on the 11th. When the US side made some PR on the manner of "safe operations," full of good things, Foreign Ministry and Defense Agency persons in charge, who were listening, chimed in, "Hm! Hm!"; Minister SNEIDER probably perceiving this as "It has taken effect," stated, "At this juncture, I will point out in particular that more dangerous chemicals than poison gas are transported in a care-free manner in Japan." Probably he intended to speak sarcastically of the over-sensitiveness of the Japanese against poison gas. However, is this statement really a good example of US-style insensibility?

* Kishaseki

SO

軍縮室長	安全保障課長	アメリカ局長 参事官 北米一課長
毒ガス撤去の問題 (往民1=27才7~12才程度 プリ-マング)		
45.12.25		
米北1		
12月23日 石川E-4に於いて行われた 松中 プリ-マング (準備員三木=佐出席) の概要		
別添1のとおり。		
土原者リスト、席上配布のパンフレットを		
そのほか別添2、別添3と12添5です。		

GA-5

3049

外務省

別添
1
1

毒ガス撤去に関する説明会質疑応答要旨

- 日時及び場所
12月23日 14時~16時 於 石川E-4 米陸軍施設
- 出席者
具志川市 (新垣市長以下5名)
美里村 (中村村長以下5名)
石川市 (平川市長以下4名)
コザ市 (大山市長以下4名)
嘉手納村 (古謝村村長以下4名)
琉球警察 (1名)
計 23名 (日本側)
第2兵站コマンド司令官 ヘイス少将
在沖米高等予備官報道調整官 グレック大佐
" " ナカヨシ (通訳)
民政府 (5名)
在沖米陸軍司令部 (1名)
計 9名 (米側)
オブザーバー
復帰準備委員会 三木 2佐
報道: 沖縄プレス、琉球新報、RBC (琉球放送)

GA6 (目録)

外務省

3. 説明会

①ヘイ少将挨拶 (仲吉通訳)

「移送は絶対安全であるので御協力を
得たい。日本国政府に実施したのと
同様の説明を行なうが、その後、いかな
る質問にも答えた。」

②グロック大佐説明 (40分間)

12月11日 現地報道関係者に実施したの
と同様の説明 (既送) を、スライドを
使用して説明 (仲吉通訳)

③質疑応答 (1時間20分)

○中村村長 (美里村)

美里村登川のキャンプヘグ手前から石
川市の瑞慶山ダム近くまで広い農道
がある。この間1カ所農道を連結する
ための約1km道路と建設すれば、住
民地域を通ることなく移送できる。」

○ヘ少将

「撤去は、完全に安全を保障された経路
を通じて行なわれなければならない。」

撤去時期を長びかすことなく達成できるか
どうか検討する。来週にでも、提案のあった
地域を、中村村長の案内で、私と、陸軍
工兵隊司令官とが、視察するようしたい。」

(大山コザ市長)

①残りの1万3000トンのガスという意味は、
ガスだけの目か。

②毒ガスはいつ沖縄に搬入したのか

③毒ガス容器の安全基準と警察等に
説明してもらいたい

(ヘ少将)

①ガス及び容器の全てを含めての目がある

②毒ガスは1962年頃搬入した。

その際も、この要領で実施したが事故は
全く無かった。

住民が知りをかつたことは、却って安全
上、良かった。

(3) 毒ガス容器は、完全に検査され、又最も安全な容器に詰めかえられて既に準備完了している。容器の安全基準について、警察署と説明することは必要ないと思う。

(中村美里村長)

住民をその日、避難させてはどうか。

(ヘッ将)

車が陸路を安全に通れば絶対安全米本国でも、保健局長の意見として、避難は却って好ましくない。又、私の専門的知識及び米本国での過去の事例でも、より住民の多い大都市を通過して、列車などで輸送した際も避難は行なっていない。

(小城立法院議員、社大党)

- (1) オレゴン州で、反対した理由は何か。
- (2) ジョンソン島に、残りの1万3000トンを送るのは、いつか。

(ヘッ将)

- (1) オレゴン州でも、十分な知識がなく、又毒ガス移送についての危険性について顧慮が行なわれたからであり、十分な知識があれば、そうはなかつたと思う。
- (2) ジョンソンの150トン分の弾庫は、既にあったもので、数年前に建設されたものである。ジョンソン島の弾庫の建設は、昨日もハワイに電話したが、既に開始された。ロード長官は、1971年末ないし1972年初めといっているが、私も、ランポート中将ももっと早く移送ようを申請している。

(某氏)

米本国で移送の安全基準があると思うが、示してもらいたい。

(ヘッ将)

ガス移送の安全基準は、^(輸送)危険物安全基準をとりまわしたものである。ランポート中将もこれを知らせているかどうかは考慮中であり

安全基準を印刷したものと、市町村等に
必要な文を配布する様にしたいと思う。

(トミエト、コザ市議長)

(1) 150トンの輸送時期はいつか

(2) 残りの " " "

(ハ、少将)

(1) 150トンの輸送準備は既に完成し、指示あり
次第で開始する。個人的には、間近に自っている
と感している。

(2) 残リドについては、レポート長官の言明以上に、
より早く移送できるよう、人間としてやる
あらゆる努力をするつもりである。

(比嘉 登川区長/美里村)

部落には、車が200台あり、通る道路は、
13ヶ所限である。又、子供も、13ヶ所
でしか遊ぶので、この経路を変更して
もらいたい。

(ハ、少将)

来週、中村村長とともに、私と陸軍工兵隊

司令官として視察するが、道路を陸軍が
取り持つこと、移送が遅延するおそれなく
ないので、この経路を使って安全に輸
送する様にしたい。

1日中、通行するのでは無いので、そのお
よびがあるとは思わない。

(某氏)

(1) 事前通告はいつ行うか。

(2) このパンフレットを見て安心した。又、
万一ガス液がこぼれても、直ちに無毒化
できることを信用してよいのであ
れば、安心であるが、本当に安全か。

(ハ、少将)

(1) 事前通告は、少なくとも、4日前、早
ければ、10日前に済ませる。

船の入港通告あり次第、琉球政府と
通じ、又、報道関係者にも通告する。

(2) このパンフレットの通り安全である。

万一事故が起きても、その対処は、技術
員が簡単に処理できる。

容器自体が爆発するよう装置は全て外してある。

コンクリートの上にもうひとつ落し、テストしてみたが、危険は無い。

万一もれても、水溜り程度の液で専門家か直ちに除毒し、その他の人々には全く危険は無い。

例えば、ダイヤライトは警告をつけてあれば危険だが、警告を外しておけば安全である。

それでも、ダイヤライトは危険物であるので、最大の注意を払うのである。

ガスも同様である。

容器がこわれても、ガスが出てくるのでは無い。

(3) ガスの種類は、マスタード、神経ガス(GB) 神経ガス(VX)の3種類である。

4. 所見

本日の説明会は、コナ事件直後で、米側としては、関係者の参集が得られるか否か、亦、政治的な悪意ある抗議的質問があるのではないかと、その成行を心配していたが、ヘイズ少将の専門家としての自信と、満ちた懇切丁寧な説明及び応答と、ハロンフレットの配布とにより、良好な効果を得られたものと思われる。

(232)

*This was approved 8/1
plan and list of
people to be used. 2
Jr. called Ted
& told him to use
Anderson, Hira &
Ota as far as
make some arrangements
or his deputy is there
pl.*

Local Officials

Place: Ishikawa Beach Recreation Center

Time and Date: To be determined.

Gushikawa	ARAKAKI, Koho TOBE, Yushin NAKAYAMA, Kenjun (OLDP) KINJO, Matsusuke HANASHIRO, Koyu	Mayor Assemblyman Legislature Local Police Chief Ku-cho; Enobi-ku
Misato	NAKAMURA, Tetsujiro IKEHARA, Harumasa YAMASHIRO, Choko (OSMP) HIGA, Yoshimasa NAKAMURA, Yusei	Mayor Assemblyman Legislature Ku-cho; Noborikawa-ku Ku-cho; Ikehara-ku
Ishikawa	HIRAKAWA, Takashi IKEHARA, Kyukichi YAMASHIRO, Choko (OSMP) SUGIHARA, Yoshiniko	Mayor Assemblyman Legislature Local Police Chief
Koza	OYAMA, Chojo TOMIMOTO, Yusei KUMAE, Choko (OLDP) AZAMA, Kitoku	Mayor Assemblyman Legislature Local Police Chief
Kadena	KOJA, Tokuzen MEYAGI, Seiro CHIBANA, Hideo (OSMP) ITOKAZU, Shinsei	Mayor Assemblyman Legislature Local Police Chief
GRI Police Chief	ARAKAKI, Shikuji	

U.S. Officials

- Mr. Simmons, Public Safety Department
- Mr. Clark, Liaison Department
- Mr. Anderson, Public Safety Department
- COL [Name], Provost Marshal
- COL [Name], Information Coordinator
- Mr. Ohta, Public Safety Department
- Mr. Ota, Public Safety Department
- Interpreter *Mr. Nakayoshi*

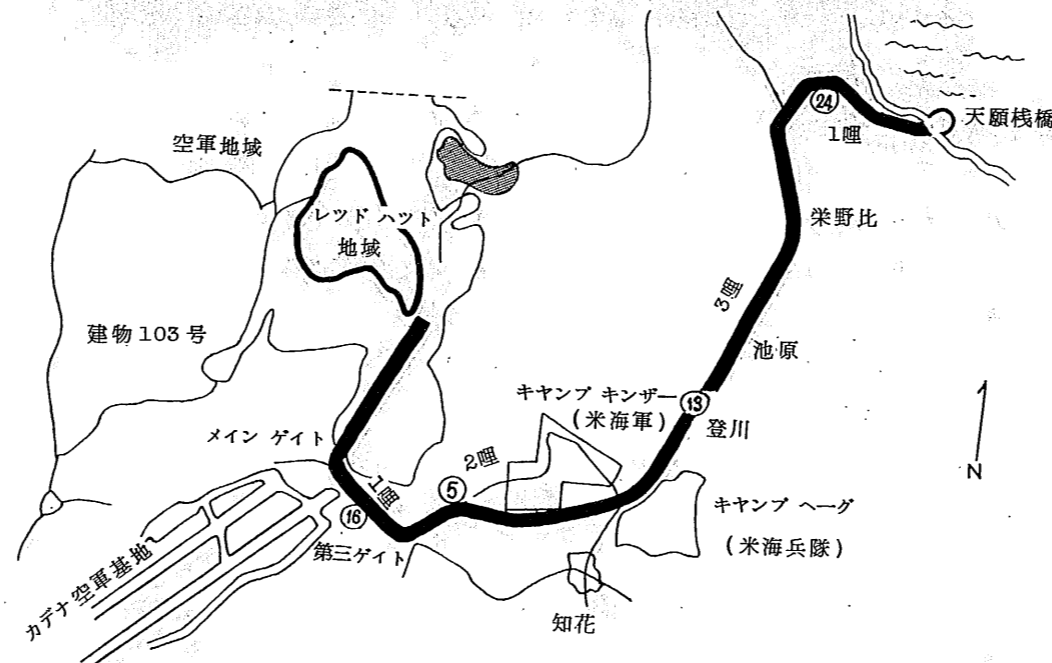
incl.

化学兵器の移送

別添
3

在琉米陸軍は近い将来、沖縄における毒性化学兵器150トン(米トン)を知花弾薬庫から天願棧橋まで運び、ジョンストン島に移すための積出し作業を開始する予定です。

この最初の積出しは別図に示される輸送ルートを経て知花弾薬庫から天願棧橋まで運ばれます。異常天候にそう遇しない限り、これは一日以内に二組の輸送車群で運ぶことになります。弾薬庫から棧橋までの輸送時間は各輸送車群共それぞれ約30分かかる予定です。



移送沿道の住民安全のためには可能なあらゆる措置が移送計画におりこまれていますので、一般の方々に対しては何ら危険性はありません。

沖縄での移送は米国内でとられる同じ内容の安全基準に従って実施されます。部分的にはかえって沖縄の場合もつきつい対策がとられます。例えば、輸送車の制限スピードが米国内の場合、時速35マイル(哩)に対して沖縄の場合は20マイルに制限されます。

安全対策に関しては琉球政府、その他の関係者に十分説明がなされました。

移送計画を練るにあたっては安全性を確保することに最大の考慮がはられました。撤去作業はその分野で米陸軍の最高の軍事専門家であり、ジョン J. ヘイズ少将の直接指揮下のもと

実施されます。輸送車には高度の専門知識をもった技術警備班が同伴します。彼等技術員は如何なる事態が起ころうともそれに対処できる訓練を受けております。

沖縄に派遣されてきました技術警備班はこの種の化学兵器を今まで長年そして数百万マイルの距離を移送して一度も事故を起こしたことがない完ぺきな記録をもっております。技術警備員の外に各輸送車群には万一の場合にそなえて十分訓練された医療班も同行します。道路監視にはヘリコプターも使われ、移送開始前から移送期間中は移送ルート全域の監視にあたります。

輸送車は安全運転記録をもった人たちの中から特に選ばれた優秀な人たちによつて運転されます。

交通規制は軍民警察当局が協力して効果的に実施しまして輸送車が邪魔されることなく進行できるようにします。

沖縄から撤去されます化学兵器には液状の化学薬剤が詰められています。濃縮ガスではありません。ですから、もし万一事故が起こつたとしても、そしてその結果容器がこわれたとしても中からもれるものは液状、つまり水たまりの形態ですのでそのすぐ近くにいる要員以外には危険の心配はありません。たとえそういう事態が起こつたとしても技術警備員が輸送車に用意されています無毒化処理剤を使つて簡単に消去することができます。

そういう理由から、直接化学兵器の取り扱いや移送にたずさわる要員、輸送車に同伴する関係者、そして輸送車の進行を管理する人員には、防護マスクが配布されます。ご存知の通り、移送経路にはいくつかの米軍基地も隣接してあります。これら基地の人員は輸送車のすぐ近くに位置する訳ではありませんので危険性は存在しません。従いまして彼等にもマスクは配布されません。

沿道の一般住民の方々は移送作業が続けられる間、下記のことからのご配慮下されば化学兵器を安全に撤去しようとする米国防軍の努力に協力することができます。

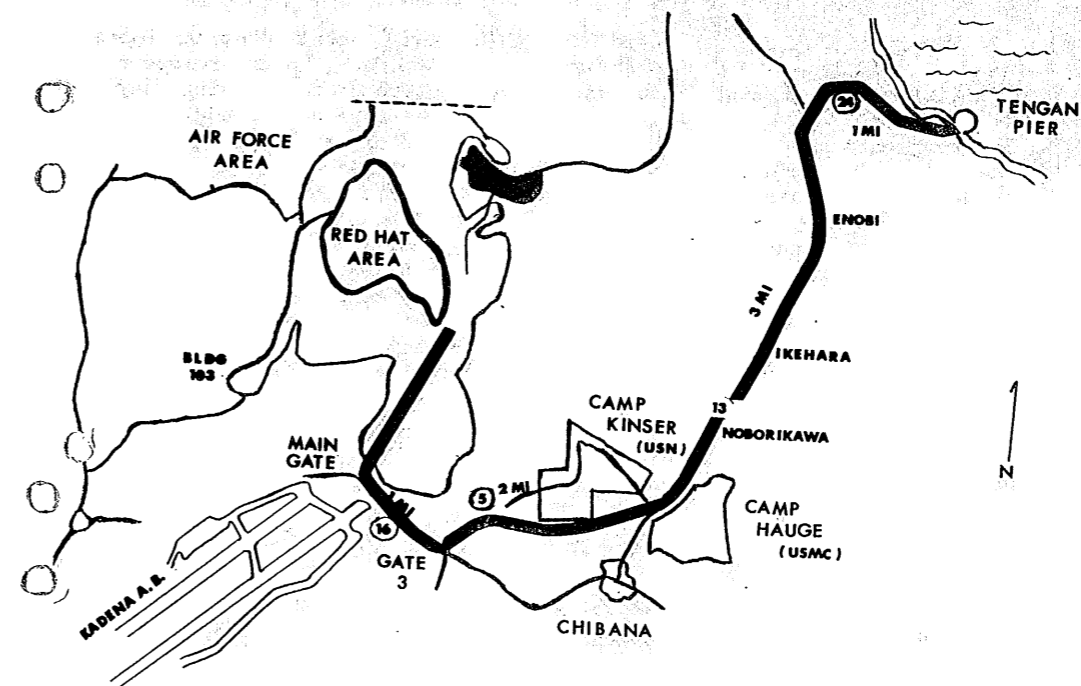
1. 輸送期間中は子供たちを道路に出さず、まちがつかも輸送車の進行をさまたげることがないようにする。
2. 輸送期間中、一般車は輸送経路への通行を避けて交通量の軽減につとめる。
3. 常に輸送車群に同行する専門家たちの指示に従い、協力する。
4. 輸送車が何かの理由で止つたとしても車輪には近づくしないで各自通常の職務を続ける。

上記の簡単なことからのご配慮下されば知花弾薬庫から天願橋までの化学兵器移送作業を安全にそして成功裡に達成する手助けとなります。皆さまのご協力をお願いいたします。

RELOCATION OF CHEMICAL MUNITIONS

In the near future the United States Army, Ryukyu Islands plans to move 150 short tons of toxic chemical munitions from the Chibana Ammunition Depot to Tengan Pier for shipment to a new storage site on Johnston Island.

This initial shipment will be transferred from Chibana Ammunition Depot to Tengan Pier along the route shown in the diagram. The initial movement will take place in one day, weather permitting, and involves two convoys, both of which will require approximately 30 minutes to make the trip from depot to pier.



Every possible measure to insure the safety of people along the route has been incorporated and there is no danger to the public. The transportation safety standards for this move are similar to the procedures followed in the United States. In fact, some of the safety standards here on Okinawa are more stringent than in the United States; for example, truck speed will be limited to 20 MPH rather than 35 MPH. GRI and local officials have been fully briefed on the safety precautions being taken. Planning for the move has been guided by a single overriding precept--SAFETY.

The relocation is under the direct control of Major General John J. Hayes, the U. S. Army's foremost military expert on the planned relocation of chemical munitions.

Both convoys will be accompanied by a highly qualified technical escort team, which is trained to deal with any problems that might arise during the trip. This team has moved this type of material millions of miles and for many years without an accident.

In addition to the technical escort team, each convoy will have trained medical personnel in the unlikely event they are needed, and a helicopter will be used for surveillance of the entire route prior to and during all convoy movements. All drivers have been chosen carefully for their safe driving record.

Military and GRI police authorities will cooperate to ensure the unhindered movement of the convoys through effective traffic control.

The munitions to be shipped out of Okinawa contain chemical agents in a liquid form and not compressed gas. Therefore, in the remote possibility of an accident, resulting in the rupture of the casing, any of the contents which might leak will be in the form of a puddle. This puddle presents no danger to personnel other than those in the immediate vicinity. In the event this occurs, technical escort personnel would simply neutralize the puddle using the decontaminants which are with each convoy. For this reason the personnel involved in direct handling and transporting of the munitions, as well as other personnel accompanying or controlling the convoy, will be the only ones provided with protective masks. You can also see that the proposed route is extremely close to several U. S. military installations. Personnel in these installations will not be provided protective masks as there is no danger to them as they will not be in the immediate vicinity.

Those people living along the route can assist the United States Army in the safe movement of these munitions by following these simple steps:

1. Keep children off the street during the movement of the convoy so they will not inadvertently interfere with the convoy's movements.
2. During the period of convoy movement, reduce the amount of traffic along the convoy route by using another road.
3. Cooperate with the directions of the expert personnel accompanying the convoy at all times.
4. In the event a convoy stops for any reason, keep away from the vehicles and proceed with your normal routine activities.

These simple rules will aid in the safe and successful movement of the chemical munitions from the Chibana Ammunition Depot to Tengan Pier. Your cooperation in this matter is respectfully requested.